月刊FALCOM MAGAZINE

Vol.42



『軌跡』シリーズ
10年の軌跡

読者投稿企画
『軌跡ノキセキ』

『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ』の
最新情報が到着！

ザナドゥにもついに鉄血の魔の手が!?
みんな集まれ！
ファルコム学園

ファルコムjdk バンド
ドラマー・オカジの
人生半キャラずらし

jdkバンド
ボーカル・コテカナの
コテ放題♥

ティオの
ファルコムラジオ
めんどくさいです…
でもがんばりますの
舞台裏

ファルコムニュース

特製グッズの
デザインも完成！

キャンペーン好評につき！
小説『英雄伝説 空の軌跡 1 消えた飛行客船』&
『英雄伝説 碧の軌跡 いつか貴方とお茶会を』を
試し読み!! 第二弾！

『閃の軌跡』コミカライズ企画の続報も！



FALCOM MAGAZINE

CONTENTS

THE LEGEND OF HEROES

閃の軌跡Ⅱ
センノキセキⅡ

の最新情報が到着!!

ついに姿を現した《身喰らう蛇》の新たな刺客!!

今月はついに結社《身喰らう蛇》の新メンバーが解禁。さらには、前作にも姿を見せていた貴族連合のトップ・カイエン公と、《西風の旅団》2人のプロフィールも明らかに!!

《劫炎》のマクバーン

CV：諏訪部順一

？歳　使用武器：焔(ほのお)

結社《身喰らう蛇》の中で最高位のエージェントに与えられる称号《執行者》。そのNo.Ⅰを務める男。普段はやる気のない態度を取っているが、その実力は執行者の中でも最高クラスで、《鋼の聖女》の異名を持つ使徒・アリアンロードにも匹敵すると言われているほど。リィンの内に眠っている「獣じみた力」の正体に気づいているという噂も……？





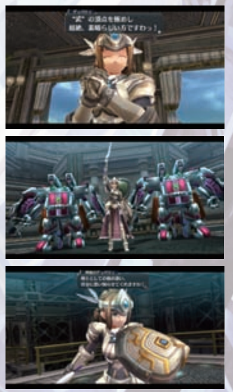
うだうだ問答するのは面倒だ——とっとと掛かって来な。

《神速》のデュバリィ

CV：大空直美

？歳　使用武器：剣＆盾

《身喰らう蛇》の第七使徒《鋼の聖女》アリアンロード直属の部隊《鉄機隊》の筆頭を務める騎士。アリアンロードに心酔しており、その忠義心は厚い。だがそれ故に、感情的になりやすい一面も持っており、それが思わぬミスを招いてしまうこともあるとのこと。どうやらⅦ組メンバーのラウラの実家・アルゼイド家とは何やら因縁があるようだが……？





フッ、我が道を阻むなら遠慮なく叩きのめすまでさ

レオニダス

CV：磯部弘

使用武器：マシンガットレット

猟兵団《西風の旅団》の元メンバー。コンビを組むゼノとは対照的に、岩のように寡黙な巨漢。相手に致命的な大打撃を与える巨大なマシンガントレットを武器に戦場を蹂躙しつくすことから、《破壊獣（ベヒモス）》の異名で恐れられている。団の解散後、トールズ士官学院の生徒として生活を送っていたフィーに対して思うところがあるとのことだ……。



我ら西風の守り、簡単に通れるとは思わぬことだ。

ゼノ

CV：松本孝平

使用武器：ブレードライフル

猟兵団《西風の旅団》の元メンバー。軽妙で独特な方言が特徴。身の丈を越すほどの大型ブレードライフルを使用するほか、数々のトラップを駆使した戦術を得意とすることから《罠使い（トラップマスター）》の異名を持っている。前作ではフィーと直接対面することはなかったが、本作ではついにレオニダスとともに、彼女の前に立ち塞がることとなる。



フッ、我が道を阻むなら遠慮なく叩きのめすまでさ

カイエン公爵

CV：島田敏

エレボニア西部に広がるラマール州を治める大貴族。貴族の中でも特に家格の高い《四大名門》の筆頭となっている。その財力は近隣諸国をはるかにしのぎ、豪奢なものを好む性格をしている。前作では《西風の旅団》のゼノ、レオニダスらを私兵に迎え入れ、《貴族連合》の主催として革新派に対するクーデターを決行。帝都ヘイムダルを占領した。



遥かな高みから、地上を見下ろすというのは愉快なものだろう？

▶『閃の軌跡Ⅱ』の最新情報が到着!!

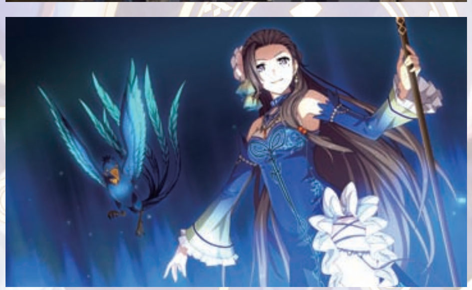
リィンたちの新たな冒険を垣間見ることができるオープニングカットが到着！

毎回プレイヤーの心をワクワクさせてくれるオープニング映像。今回はそのカットも一気に到着！　オープニングはどうやら、あの絶望のEDから目を覚ましたリィンからスタートするようだ。発売まであと2ヶ月。リィンたちの描く軌跡に思いを馳せてみよう。なお、オープニングテーマ『閃光の行方』は、今号の『人生半キャラずらし』のテーマにもなっているので、あわせてチェックしてみよう。







●製品情報
●タイトル　：英雄伝説 閃の軌跡II
●発売日　：2014年9月25日(木)
●ジャンル　：ストーリー RPG
●対応機種　：PlayStation® 3、PlayStation®Vita
●プレイ人数：1人
●税抜価格　：限定ドラマＣＤ同梱版（PS3）税抜8,800円
限定ドラマＣＤ同梱版(PS Vita)税抜7,800円
限通常版（PS3）税抜7,800円
通通常版（PS Vita）税抜6,800円
●CEROレーティング：B
●コピーライト：



アルフィン皇女

CV：佐藤聡美

15歳

エレボニア帝国皇帝・ユーゲントⅢ世の娘にして、皇太子セドリックの双子の姉。腹違いの兄・オリヴァルト皇子に似たのか、明るく社交的で悪戯っぽい性格をしている。リィンの妹・エリゼとは同じ女学院に通う親友同士で、彼女からリィンの話を聞くにつれ、リィン自身にも興味を抱くようになる。内戦が激化する中、その安否は長らく不明だったが　とあるきっかけでリィンたちの行動と深く関わっていくことになる。








ふふっ、エリゼに知られたら完全に妬かれてしまいますね。

上位リンクアビリティとパワーアップした『ブレード』の情報も到着！

Ⅶ組メンバーが使用している戦術オーブメント《ARCUS》でリンクしたパートナーと、リンクレベルを上げていくことにより使用することができる上位のリンクアビリティと、作中で遊ぶことができるカードゲーム『ブレードⅡ』の新要素を紹介しよう。

●『ブレードⅡ』の新カード



『ブラストカード』：相手の手札から1枚選んで破棄する



『フォースカード』：自陣の数値を2倍にする

●上位リンクアビリティ



大激昂
パートナーが攻撃されると怒りで自身のCPを75上昇させる



刹那の猛追撃
追撃時のダメージが通常の1.5倍となり、更に敵のSPDを50%下げる



堅守
パートナーが攻撃された時にかばい、ダメージを1/10に減らす



ブーストアーツⅡ
パートナーの攻撃アーツを強化し、ダメージを1.5倍に引き上げる

『軌跡』シリーズ 10年の軌跡

第2回『軌跡』ならやっぱり主題歌も聴き逃せない！

前号から始まった『軌跡』シリーズをいろいろな形で振り返る当企画。第2回は、物語をドラマチックに盛り上げる主題歌。『軌跡』シリーズは日本ファルコムのゲーム作品で、初めて「ボーカル」を取り入れたシリーズでもあるのだ！



2012年に発売されたもうひとつの『軌跡』。空から遺跡が降ってくるという《残され島》生まれの少年・ナユタが妖精のように小さな少女・ノイと出会ったことがきっかけで起こる不思議なひと夏の出来事を描いた新ジャンル・ストーリーARPGとなっている。

▸那由多の軌跡

■オープニングテーマ：『那由多の星の物語』
歌：小寺可南子　作詞：小寺可南子
編曲：上倉紀行　作曲：Falcom Sound Team jdk

■エンディングテーマ：『那由多の想い』
歌：小寺可南子　作詞：浜田英明
編曲：神藤由東大　作曲：Falcom Sound Team jdk



西ゼムリア大陸の列強・エレボニア帝国を舞台に、皇族ゆかりのトールズ士官学院特科クラス《Ⅶ組》一同が、貴族派と革新派の対立など、国内に広がる様々な"壁"に立ち向かう姿が描かれる。昨年に『閃の軌跡』が発売され、今年の9月25日にその続編となる『閃の軌跡Ⅱ』が発売される。

▸英雄伝説 閃の軌跡

■オープニングテーマ：『明日への鼓動』
歌歌：小寺可南子　編曲：神藤由東大
作曲：Falcom Sound Team jdk

■エンディングテーマ：『I miss you』
歌：小寺可南子　編曲：上倉紀行
作曲：Falcom Sound Team jdk

▸英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ

■オープニングテーマ：『閃光の行方』
歌：小寺可南子　編曲：岡島俊治
作曲：Falcom Sound Team jdk

今回紹介された楽曲はダウンロードでも好評販売中！　そしてなんと、最新作『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ』の主題歌『閃光の行方』は、8月6日にゲームの発売に先駆け配信されることが決定だ！詳しくは日本ファルコムオフィシャルホームページにGO!!



リベール王国を舞台とした『軌跡』シリーズの出発点。2004年にその第1作となる『FC』が発売され、2006年に『SC』、2007年に『the 3rd』と発売された。

▸英雄伝説 空の軌跡FC

■オープニングテーマ：『空の軌跡』
作曲：Falcom Sound Team jdk

■エンディングテーマ：『星の在り処』
歌：う～み　作詞：浜田英明
編曲：和田耕平　作曲：Falcom Sound Team jdk

▸英雄伝説 空の軌跡SC

■オープニングテーマ：『銀の意志 金の翼』
歌：山脇宏子　作詞：一二三恭
編曲：神藤由東大　作曲：Falcom Sound Team jdk

■エンディングテーマ：『I swear…』
歌：小寺可南子　作詞：しばざきあやこ
編曲：和田耕平　作曲：Falcom Sound Team jdk

▸英雄伝説 空の軌跡 the 3rd

■オープニングテーマ：
『Cry for me, cry for you』
歌：小寺可南子　作詞：一二三恭
編曲：神藤由東大　作曲：Falcom Sound Team jdk

■エンディングテーマ：
『空を見上げて Ending version』
歌：小寺可南子　作詞：一二三恭
編曲：神藤由東大　作曲：Falcom Sound Team jdk

▸英雄伝説 零の軌跡

■オープニングテーマ：
『way of life』
歌：小寺可南子　作詞：一二三恭
編曲：神藤由東大
作曲：Falcom Sound Team jdk

■エンディングテーマ：
『新しき日々～予兆』
作曲：Falcom Sound Team jdk

▸英雄伝説 碧の軌跡

■オープニングテーマ：『碧い軌跡』
歌：小寺可南子　作詞：一二三恭
編曲：神藤由東大　作曲：Falcom Sound Team jdk

■エンディングテーマ：『それでも僕らは。』
作曲：Falcom Sound Team jdk



エレボニア帝国とカルバード共和国という超大国に挟まれ、翻弄され続けるクロスベル自治州を舞台に、クロスベル警察の新設部署・特務支援課の一同が壁を乗り越えていく物語。2010年に『零の軌跡』が、翌2011年に『碧の軌跡』が発売された。

みんな集まれ！ファルコム学園

新久保だいすけ



正義の作戦会議



憎しみの視線



復活の鉄血



ザナドゥと記憶



悪と正義



詳細不明の男



本当の妹



いい関係



興　味



近代化



波に乗り遅れた者



鉄血の正体



中立なる者



最強のヨロイ



進歩なき人々




FB ファルコムBOOKS
空の軌跡外伝
レーヴェ物語
作画：楽時たらひ　脚本：田沢大典
もうひとつの
『空の軌跡』が始まる——
原作：日本ファルコム
（『英雄伝説 空の軌跡』）
価格：893円(税込)
ISBN:978-489610-224-6
『英雄伝説 空の軌跡』の人気キャラクター・《剣帝》レオンハルトの過去を描くアウターストーリーのコミカライズ。彼はいかにして《身喰らう蛇》に与みし、数奇な運命を辿ったのか。レオンハルトの目線から見たもうひとつの『空の軌跡』の物語が始まる！　©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
全国書店にて大好評発売中!!
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら
www.field-y.co.jp


FB ファルコムBOOKS
目指せ！
ファルコム
一番星!!
日本ファルコムの人気キャラクター達が繰り広げるオールスターギャグ四コマの暴走は止まらない！　まさかのアニメ化でますますヒートアップ（？）するファルコム学園に君も入学してみないか!?
ファルコム学園
アニメ化御礼！
みんな集まれ！
ファルコム学園①②
著者：新久保だいすけ
本体：850円+(税)
ISBN:978-489610-245-1
好評発売中!!
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら
www.field-y.co.jp

▶ファルコムニュース◀

ファルコムファンに贈る最新ニュースをピックアップ！

コミックマーケット86 出展情報

暑い夏をさらにアツく盛り上げろ!!

　毎年恒例、コミックマーケットにて販売される日本ファルコムの最新グッズの情報がマガジンに到着だ！
　最新作『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ』のキャラクターをフィーチャーしたグッズや「軌跡」シリーズ10周年を記念した特別仕様のシルバーアクセサリー、おみやげにも最適なキュートなスイーツも販売。ブースでは３Ｄうちわの無料配布など、暑い夏に負けないラインナップが目白押しだ！



▲どデカ タペストリー アルティナ＆ミリアム



▲アリサちゃんTシャツ



▶『英雄伝説 閃の軌跡』ラバーストラップ



▲「にがトマトを あま～いゼリーにしました。」「ミシュラム水ようかん」



▲コミケ会場先行販売! 碧の軌跡Evolution オリジナルサウンドトラック

●コミケ情報
■イベント名：　コミックマーケット 86
■開催日時：８月 15 日 (金) ～ 17 日 (日)
　10:00 ～ 17:00 ※ 17 日は 16:00 まで
■場所：東京国際展示場・東京ビッグサイト 西４階企業ブース
■ブース番号：日本ファルコムブース … No.545
■特設サイト URL：http://www.falcom.com/c86/index.html



ブースでは 3Dうちわを無料配布!!

『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ』主題歌 先行配信

発売にさきがけ、熱い主題歌がいち早く聴ける!

　「軌跡」シリーズの10周年記念作品『英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ』、2014年９月25日に予定された発売に先駆けて主題歌『閃光の行方』を特別価格で先行配信決定！　また、今回ハイレゾ音楽配信サイト「e-onkyo music」、「mora」では、主題歌のハイレゾ音源配信も同日より開始される。（ハイレゾ＝高解像度の音楽データ）８月6日より各音楽配信サイトより配信開始。



軌跡ノキセキ

先月号で大好評を博した読者参加型企画、今回もファンから届いた熱いメッセージやイラストを大公開！　日本各地、はたまた中国からも軌跡シリーズ10周年をお祝いするおたよりがたくさん届いているぞ！

エステルと一緒に無我夢中でリベールの地を走り回った日々を忘れません。今でもとてもとても大切な旅でした。発売されたゲームは10年経てば自然と10周年を迎えられますが、いまだにシリーズ最新作が最前線で活躍されているのは本当に素敵で素晴らしいことだと思います。10周年おめでとうございます！　これからもわくわくとドキドキを楽しみにしています!!
▲MMM／大阪府





たくさんのメッセージありがとうな！



軌跡10周年おめでとうございます。ＰＳＰ版空の軌跡ＦＣを発売日に購入してからのファンですがまさか、ここまで長い付き合いになるとは。まだまだ広がり続ける軌跡の世界、今後も応援しています！
▲瓶詰西瓜／神奈川県

いつまでたってもクルツさんとアネラスさんが大好きです！　この二人に出会わせてくれてありがとうございます。これからの軌跡に期待!!
▲さとやま／千葉県



あたし達の活躍、これからも応援してよね！



閃２期待！
▲Ako／中国







軌跡シリーズ10周年、おめでとうございます！　友人に勧められてプレイし始めたのですが、様々な背景を持つ魅力的なキャラクターたち、壮大な世界観、そしてそれらが絶妙に絡み合うストーリーにすっかり魅了されてしまいました。今回は描けませんでしたが、個人的にアンゼリカ先輩が大っ好きです!!

▲波動アイル／東京都

好評につきファルコムマガジン読者投稿ページ始動！
あなたの大好きなファルコム作品のイラストや
「ファルコム愛」を語ったメッセージなど広く募集しちゃいます！

宛先：

件名：読者投稿

名前（ペンネーム）

お住まいの都道府県

・メッセージ
（200文字以内）

・イラスト
（添付にて。3MB以内）

ハガキでの投稿宛先

〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台3-1-9 日光ビル3F
（株）フィールドワイ
「軌跡ノキセキ投稿」係

メールでの投稿アドレス

falmaga@field-y.co.jp

人生楽キャラずらし



jdkバンドのドラマー・オカジがファルコムと音楽と人生について熱く語ります！

「閃光の行方-閃の軌跡Ⅱ主題歌制作秘話-」

閃の軌跡Ⅱの発売まで、あと二月余り。先日、主題歌である「閃光の行方」が無事、秋葉原の店頭イベントで初公開されたようだ。イベントに参加した方からの評判も上々でうれしい限り。と、言うのも、なにしろこの「閃光の行方」は僕が制作を担当させて頂いた楽曲なのである。僕自身、閃の軌跡をプレイし、あのエンディングで途方に暮れたクチなわけで、あの直後から始まるストーリー展開が気になって気になって仕事も手に付かない毎日を送っていた最中に制作したのだから、完成した楽曲には色んな感情や想いのたけがギッシリと詰まっていて当然なのだ。

そして、今回の楽曲制作は結構チャレンジングな要素も満載だった。マスターデータはなんと全てハイレゾ（厳密には96000kHz/24bitのPCM）で録りおろし、すべての音をクリアでパワフルなサウンドに仕上げている。今回演奏に参加してくれたメンバーへのディレクションも「とにかく熱い」プレイをお願いし、特にボーカルのコテカナの歌は、今までの彼女のイメージを塗り替えるような「ロック」な歌声になっている。完全にロックボーカリストだ。ミュージシャンが音楽の力によって、新たな一面を見せてくれるというのは本当に楽しい。

また、立川のダームの塔（ファルコム本社）からは、「今までにない熱さ」を演出して欲しいとのオーダーがあり、「男性コーラスはマスト」という事を通達された。しかも何故か「ぶっちゃけオカジが歌ってもいいよ」という謎のメッセージまで一緒に通達されたのだ。最初は僕も「いや、それはやめましょうよ」と消極的だったのだが、男性コーラスの人選の件で相談したコテカナにまで「オカジうたえばいいじゃん」とか言われる始末。何故なのか？　あなた方はオイラの歌を聴いた事があるんですか。いや、別に歌うのは嫌いじゃないけど、製品レベルで使っていいのかどうかは別なわけで……。とか言っているうちに、男性コーラスは見つからないままレコーディングに突入。最悪、「男性コーラスは見つかりませんでしたゴメンナサイ。」とか言ってお茶を濁そうかとも思ったのだが、立川のダームの塔が沈黙致しまし





岡島俊治（Okaji）

1979年6月9日生まれ
ドラマー/パーカッショニスト/作曲、編曲家/プロデューサー
洗足学園短期大学器楽科打楽器専攻卒業。
2000年、ロックバンド『HeadPhonesPresident』のドラマーとしてデビュー。
2005年、同バンド脱退後はフリーミュージシャンとしての活動を開始。様々なアーティストのサポート、レコーディング、プロデュース等を行う。
2008年より『ファルコムjdkバンド』に参加。
主な共演歴：jdk BAND、Sixh.Opera、HeavensDust、野宮真貴、植村花菜、CORE OF SOUL、DENIAL、安藤禎央、清田愛未、中村幸代、一純悠人、momokomotion、越尾さくら…etc

た。いかが致しましょうか的な、黒真珠の災厄が降りかかるような展開になるのも怖かったし（なんのこっちゃ）、ここはせっかくなので、コテカナのメインボーカル収録の後の時間を使って、コテカナ先生の指導の下、この際歌ってみる事にした。もう、当たって砕けろ精神である。人生、何事も経験だ。

コテカナのメインボーカルの録音時間はさすが実力派、コーラスパートも含め小一時間程度でサクっと終了したわけだが、僕のコーラス録りは難航を極めた。たった１０数小節のコーラスを録るのに２時間半以上。歌とはなんと難しいものなのか。そして収録後の疲労感の半端なさ。歌っているだけなのに、完全に全身運動なのだ。これは正直、ドラムの比ではない。ドラムであんなに大汗かいてる場合じゃないよ、ほんとに。でもコテカナ先生の指導の甲斐もあり、自分の予想を遥かに裏切って、かなり良い感じに収録する事ができた。基本的に自分の声というのは大方の人が聴くと違和感を覚えるものなのだが、今回に関してだけは自分としても「アリ」であった。男性コーラスと女性コーラスの分厚いコーラスラインが入ったサビは、往年のロボットアニメを彷彿とさせる。確かにこれは熱い！　……ダームの塔からの指令は、この完成を見越しての通達だったのか。……ディレクションする側をディレクションし、見事にコントロールしてより良い作品を創り上げるとは!!

まったく、ダームの塔恐ろしやである。さすが、黒真珠でイースを浮かせていただけのことはある（だからなんのこっちゃ）。

さて、そんなこんなで汗水垂らしながら丹精こめて創り上げた閃の軌跡Ⅱ主題歌「閃光の行方」。皆様がちゃんと聴く事ができるのはもう少し先になるかもしれないが、ゲームの発売と併せて、是非是非楽しみにしていて頂きたい！

僕も早く閃Ⅱプレイしたいよぉぉぉっ!!

また次回お会いしましょう。では〜！

軌跡シリーズ最新作「英雄伝説 閃の軌跡Ⅱ」主題歌
『閃光の行方』
特別価格で2014年8月6日(水)先行配信決定！
〜ハイレゾ音源も同日配信スタート！〜

■閃光の行方
歌：小寺可南子／演奏：Falcom jdk BAND
配信日：2014年8月6日（水）
価格：150円 (税込)
ハイレゾ版 250円(税込)
※ハイレゾ版は96kHz／24bit(WAV＆flac)での配信となります

■音楽配信サイト
＜iTunes® Store＞ https://itunes.apple.com/jp/album/ming-riheno-gu-dong-xiao-si/id683128445
<Amazon デジタルミュージックストア> http://amzn.to/170XtHM
＜mora＞ http://mora.jp/package/43000035/SEN_SONG/
■ハイレゾ音楽配信サイト
<e-onkyo music> http://www.e-onkyo.com/music/
<mora>ハイレゾ配信ページ http://mora.jp/index_hires

≪Falcom jdkバンドライブ特設サイトURL≫

http://www.falcom.co.jp/jdk/fa_live.html

コテ放題

コテカナことjdkBANDボーカル小寺可南子がゲームと共に、好き放題な日々のことを描くコラム!!

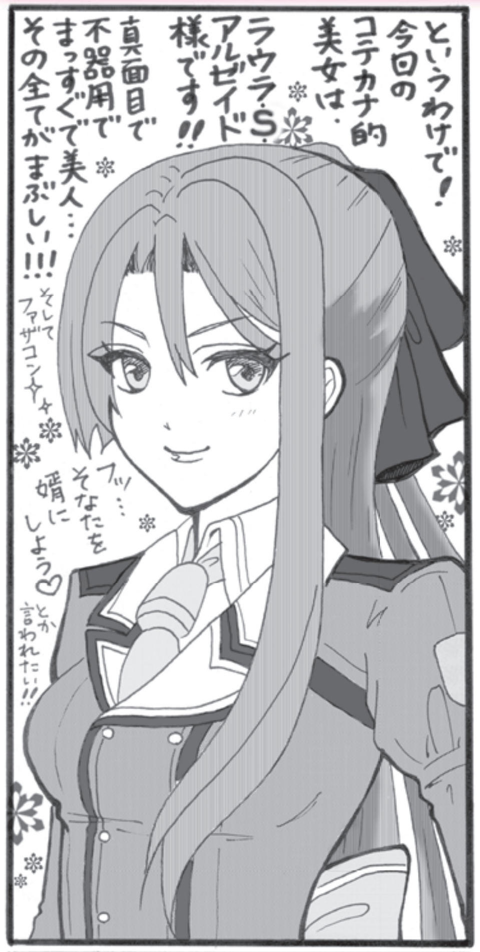
▶PROFILE



日本ファルコムのゲームソングを奏でる専属バンド"jdkBAND"のボーカル。webラジオ「ファルコムラジオ"めんどくさいです…でもがんばります"」では声優水橋かおりさんと共にパーソナリティをつとめる。その他CMソング、ジングルなど活動は多岐に渡る。
twitter @cana_ko_tera

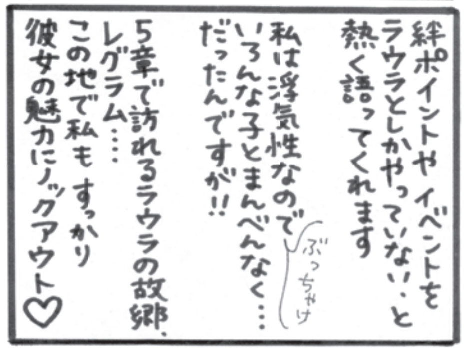
いよいよ閃も後半戦!!

まいどドウモ皆様！　ポンコツプレイヤーの私がお届けするコテ放題、閃の軌跡もいよいよ後半戦！　第５章です！　どのキャラも意外な一面を見せてくれるし絆も強くなってくるし、それと同時に予想してなかったことが判明したりしたりしてて……ネタバレしない程度に描くのむずかしいです鬼編!!　入学から始まった閃の世界は蝉の声が響く夏に突入。現実世界と季節がリンクして、同じ時間を生きているような気持ちがしています。学院生活にはクーラーなんて無いみたいでみんな大変そう。気分転換には旅行が１番！　てことで！　これを書いている数時間後には香港のイベントに出演してるコテカナです！　来月はそのレポなんかも書かせていただこうかなー♪　お楽しみに！









次回はコテカナの特別実習の成果が明かされる……かも？

特別キャンペーン終了まであと1ヶ月！　大好評!!

小説『英雄伝説 空の軌跡 1　消えた飛行客船』&『英雄伝説 碧の軌跡 いつか貴方とお茶会を』を試し読み!!　第二弾





現在好評開催中の「『軌跡シリーズ』10周年記念　ファルコムBOOKS特製グッズプレゼントキャンペーン」。すでに多くのお便りをいただいている中、キャンペーン終了まであと1ヶ月ということで、もう一度、6月発売の新刊小説『英雄伝説 空の軌跡 1 消えた飛行客船』と『英雄伝説 碧の軌跡 いつか貴方とお茶会を』の試し読みをお届けしちゃうぞ！　1回目に読めなかった人もこの機会に、ぜひご一読を！



特製グッズのイメージが完成！

そして今回、応募者全員プレゼントの画像がついに完成！　その内容は、啄木鳥しんき先生と新久保だいすけ先生が『夢の軌跡』用に描き下ろしたイラストの特製クリアファイルだ！　ゲーム外では一切使われていない貴重なイラストなので、この機会にぜひゲットしよう！



2011年10月から好評配信中のWEBラジオ『ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります』の舞台裏をこっそりお届け♪

ティオのファルコムラジオめんどくさいです…でもがんばります
■**配信日**　毎週金曜日、公式HP、ランティスラジオ、ニコニコ動画にて更新。
■**メインパーソナリティ**　水橋かおり（『碧の軌跡』ティオ・プラトー役）　小寺可南子（『ファルコムjdkバンド』ボーカル）
■**公式ホームページ**　http://www.falcom-radio.com/

第137回-第139回　龍谷修武（『碧の軌跡Evolution』ツァイト／ヴァルド・ヴァレス役）

137-139回のゲストは、『英雄伝説 碧の軌跡Evolution』でツァイト、ヴァルド・ヴァレスを演じられている龍谷修武さんがラジオに初参加。昨年亡くなられた同じ事務所の同期・滝下毅さんの役を引き継いだことについて、龍谷さんなりの想いが熱く語られた回となった。また、「特務しれん課」のコーナーでは、久しぶりに支援課見習いのふたりがイベントレポートを披露。3回にわたって、5月25日にロフトプラスワンで行われた「ファルコム学園」イベントをレポートした結果が放送された。

▶第137回-第139回の舞台裏◀

今回のゲスト・龍谷さんは滝下さんと長年、公私を共にされた仲。そんな龍谷さんだからこそ話すことができるエピソードがたっぷり詰まった収録となったため、なるべくゲストパートはカットしない形で行くことが収録後すぐにスタッフの中で決定されたのだ。

第140回　なし（ファルコム川柳スペシャル）

140回はファルコムミュージックライブラリーと、3回目となりレギュラーとして定着しはじめた（？）ファルコム川柳スペシャルの２本立て。ミュージックライブラリーのコーナーでは、『ドラスレファミリー』、『ボーカルコレクションⅠ』からそれぞれ1曲が紹介された。川柳コーナーでは、投稿するリスナーも作品の腕がどんどん上がり、パーソナリティの4人も、終始感心しきりの様子だった。また、フリートークのコーナー、川柳コーナーを通して、音ゲーや釣りゲー、女の子攻略ゲームなど、多くの要望が飛び交っていた。

▶第140回の舞台裏◀

今回で3回目となった川柳コーナー。おなじみになりつつあるとはいえ、まだまだ常連リスナーさんのお便りが多いので、多くの作品を随時募集中とのことだ。これが初投稿、となった場合はかなりの確率で読んでもらえるかもしれないので、どんどん応募してみるといいかもしれないぞ！







今月のコテガキ

毎週更新とともに発表される、小寺さん直筆の「コテガキ」を少しだけご紹介！

『碧の軌跡』のキャラクターたちが繰り広げる
本編ストーリーとは違うゆる〜い物語

英雄伝説 碧の軌跡 いつか貴女とお茶会を

書き下ろしエピソードを一部試し読み!

著：むらさきゆきや　イラスト：窪茶

今号ではvol.41に引き続き、先月発売された新刊『英雄伝説 碧の軌跡 いつか貴方とお茶会を』の試し読み第２弾だ！　ランディが支援課のメンバーに秘密で“あること”を決行する第1話『ランディのプレゼント』の前半をお届け!!





■書籍情報
タイトル：『英雄伝説 碧の軌跡 いつか貴女とお茶会を』
原作：日本ファルコム（『英雄伝説 碧の軌跡』） 著：むらさきゆきや　イラスト：窪茶
好評発売中　価格：1,110円+税　判型：B6正寸　ページ数：280ページ

『ランディのプレゼント』

著：むらさきゆきや／イラスト：窪茶

※本コーナーは、６月24日に発売された『英雄伝説 碧の軌跡 いつか貴方とお茶会を』の冒頭部分を、本コーナー用に再レイアウトして掲載しているものです。実際の商品とは一部レイアウトが違いますことを、予めご了承ください。

ゼムリア大陸西部にある自治州クロスベル。
エレボニア帝国とカルバード共和国という二大勢力に夾まれた都は、経済の発展とともに、犯罪組織の台頭や諜報謀略の温床といった闇の面も色濃くなり、さまざまな事件が起きていた。
クロスベル警察に新設された特務支援課に所属する面々は、微力ながらも人々の要請に応え、日々、信念を旨として街の平和のために職務に励むのだった。

しかし、人はパンのみにて生きるにあらず。紅茶にお砂糖も必要なのだ。

「え〜っと……あと買ってないのは……」
ブラウンの髪の青年がメモを見ながらカゴに商品を入れていく。
捜査官ロイド・バニングスは、つかの間の昼休みに、仲間たちと百貨店《タイムズ》まで買

い出しに来ていた。
　昼時だけに、一階の食料品売り場は、とくに賑わっている。
「ロイド、ちょっといい？」
「ん？　なんだい？」
　話しかけてきたのは、エリィ・マクダエル。パールグレイの髪を腰まで伸ばした美しい少女である。
　前市長の孫娘で、射撃の名手。政界入りを嘱望された才媛だが、故あって警察官になっている。
「厚切りベーコンが特売らしいの。夕飯は炒め物なんてどうかしら？」
「ああ、いいね」
「じゃあ、買っておくわね」
　やわらかい笑みを残してエリィは店の奥に向かった。
　メモに書かれている物を探して、ロイドは別の方向へ。
　ふと、ぬいぐるみやグッズのコーナーに目を向けると子どもたちに混じって、仲間の姿があった。
　猫耳のような形の髪飾り(センサー)を頭に乗せた、ライトブルーの髪の少女が、真剣な表情をして商品棚を見つめている。

『ランディのプレゼント』

「こ、これは……限定色のみっしぃキーホルダー⁉　しかし、同じ物の通常版は持っているわけですし、限られた予算を有効に活用するために、ここは自重すべきかと。で、でも、今、これを逃せば永遠に入手は不可能です……」
　少女は名をティオ・プラトーといい、エプスタイン財団から支援課に出向している。
　導力技術に精通し、超常の知覚力を持ち、十四歳とは思えないクールな言動をするのだが、みっしぃというマスコットキャラクターが大好きという子どもらしい面もあった。語り出すと止まらないほどだ。
　う〜ん、と悩んでいるティオに声をかける。
「どうしたんだ？」
「ハッ⁉　ロイドさん……すみません、お買い物を任せてしまって」
「気にしなくていいよ。俺は見たいものがあるわけじゃないし。ティオ、なにか困ってるみたいじゃなかったか？」
「……お恥ずかしいところを見られてしまいました」
　少女が頬を赤らめる。
「いや、そんなことないけど」
　いつものクールな表情でティオが話す。
「色が違えば受ける印象は異なるわけですから、いわば別物。同じ形の通常版を持っているこ

とは関係なく、これは限定グッズと考えられます。すなわち、購入するのになんら迷う余地などありませんでした。躊躇するとは、お恥ずかしいかぎりです」

「あ、ああ……そういう意味だったのか」

　ロイドは苦笑する。

　ティオが丁寧にみっしぃキーホルダーを手にして、会計へと向かった。

　その後、必要なものをカゴに入れたロイドも、支払いのためにレジの列に並ぶ。

　小さな女の子が走ってきた。

　カゴが当たらないように持ち上げる。

　ロイドの腹に、ライムグリーンの髪の幼い女の子が、体当たりしてきた。

　どしんっ、と受け止める。

「おっと……いいタックルだな、キーア。でも、店内で走ったら危ないぞ」

「わかった。ロイド！　これ、買って！」

　特務支援課で保護している女の子、キーアだった。

　過去にいろいろあって、今はロイドたちが親代わりをしている。

　しゃがんで目の高さを合わせた。

「どれどれ？」

「これ」

　キーアが持ってきたのは、犬の首輪だった。

「ツァイト用か？」

「うん！」

　支援課には、この地方の伝説にある白狼がいる。ツァイトといって、ロイドたちメンバーを助けてくれている仲間だ。

　対外的には警察犬だと言い張っているが。

「なるほど、いいかもしれないな」

　誰に需要があるのか謎だが、プレートに《POLICE DOG》と書かれていた。

「えへへっ」

「せっかくだし、プレゼント包装ができるか訊いてみるよ」

「やった！　ロイド、ありがとー！」

「いいさ。キーアもツァイトも俺たちの大切な仲間だからな」

　頭をなでてやると、キーアがくすぐったそうに目を細めた。

　会計を済ませる。

　ロイドは他のメンバーたちを探した。

　エリィとティオは百貨店の入り口のあたりでおしゃべりして待っている。

　キーアを預け、もうひとりを探しに歩いた。

もしかしたら二階だろうか？　と階段のほうへ向かったところ、赤毛で長身の青年を見つけた。

ランディ・オルランド。

元々は警備隊に所属していたが、素行不良でクビになりかけたところを特務支援課に引き取られた……と聞いているけれども、いろいろと事情がありそうだ。

「おーい、ラ……」

名前を呼びかけたロイドだったが、口を閉じた。

商品棚もない隅のほうで、何をしているのかと思えば、ちょうど通信を受けたところだったらしい。

手にしたエニグマ――多様な機能を持った第5世代戦術オーブメント。通信機能も備えている――を耳へと当てている。

「おう、俺だ……ひさしぶりだな、元気か？　……ああ、したぞ、昨日の夜……」

通信中らしい。

そう長くもならないだろうから、ロイドは待つことにした。

ほんの少し前――

『ランディのプレゼント』

クロスベル自治州の西端に位置するベルガード門。

その一角、導力通信機の置かれた部屋だった。私用の通信は、ここを使う規則となっている。

現在の利用者はひとり。

ミレイユ三尉は何度目かの深呼吸をした。

ウェーブのかかった金色の髪をかきあげて、見られるわけでもないのに服装を整える。

なんてことないはずなのに、無駄に緊張してしまっていた。

わずかに震える手で、壁掛けの通信機の受話器を取る。

暗記している番号を入力した。

数回のコールで、通信がつながる。耳に当てた受話器から、青年の声が流れてきた。

『おう、俺だ』

「ッ!!　ランディ……あたしよ、ミレイユ」

『ひさしぶりだな、元気か？』

「まあまあね。あなた、昨日、連絡してきたでしょ？」

『ああ、したぞ、昨日の夜』

「タイミングが悪いわね。ちょうど偵察任務中だったから門を出ていたの」

『そうらしいな。まぁ、急ぐ用事じゃないからいいんだけどさ』

「ふーん、言ってみたら？　その急がない用事ってのは」

とても気になりつつも、照れくさくて気のない訊き方をしてしまう。
ランディが苦笑したのが聞こえてくる。見透かされているようで頬が熱くなった。
『ちょっと前に支援課でミシュラムに行ったんだ』
「ＭＷＬ（ミシュラムワンダーランド）？」
『ああ、新しくオープンするビーチのほうも見せてもらったが、なかなか悪くなかったぞ』
「みんなで、行ったんだ？」
『ロイドたちとな』
「いいなぁ……あ……いえ、休暇がうらやましいって意味だからね!?」
『はいはい』
ミレイユはＭＷＬに行ったことがなかった。べつに休暇がまったくないわけではないが、一緒に行くような親しい友人がいないし、ひとりで行くのは恥ずかしい気がする。
「それがどうかしたの？」
『みやげ話だけじゃなんだから、ちょっと渡そうと思ってる物があってよ。近いうちにメシでも食べないか？』
「え……メシって……物って……？」
『ああ、いや、そんな大層な物じゃないぞ。昇進祝いってやつだ』
すこし前に、ミレイユは准尉から三尉になっている。

とある事件により、警備隊の人手が足りなくなったせいだと思うが。
「………今日？」
『え？　いや、今日でもいいけど。急だな』
「そ、そうかしら？　でも、ちょうど任務あけで、明日の朝までオフで、次はいつ休めるかわからないし、べつにどうしてもってわけじゃないけど」
『俺のほうは非番じゃないんだよな。今は昼休みだが……』
そういえば、通信機の向こうから人の声が聞こえている。外にいるのかもしれない。
『……まぁいいか。夕方にはあがれるだろうし、市内（クロスベル）でディナーでもどうだ？』
「ッ!?　ディナー!?　う、う、うん、かまわないわよ。どこに行くのか知らないけど」
『屋台で天上麺なんていいんじゃないか？　俺のイチオシ』
「……え……？」
べつに屋台がキライなわけではないが、ディナーという言葉の響きからは遠いような気がした。
でも、本気でオススメしているなら、断るのは申し訳ない。
どうしよう？
ミレイユが悩んでいると、ランディが笑いだした。
『はは……冗談だ。まだ夜までに時間あるし、ちゃんとした店を押さえておくって。楽しみに

しとけ』
「ば、ばか。変なトコだったら承知しないんだからね!?」
　またからかわれた。こういうところがランディは他の人たちと違うと思う。
　ミレイユは若くして三尉という地位にある。警備隊の面々は敬意を払ってくれるが、そのぶん気安く接してくる者はいなかった。
　女性として扱われることに慣れていないから、どうしたらいいかわからなくて、つい強く返してしまう。
　素直な子のほうがかわいいんだろうなぁ……とは思いつつも。
『まぁ、店は任せてくれ。待ち合わせは、今夜の七時にアルカンシェルの前でどうだ？』
「うん……了解。本日十九時(ヒトキュウマルマル)に繁華街エリアのアルカンシェル劇場前で」
『お、おう。武装はしてくるなよ？　レストランに入れなくなるぞ』
「うっ……し、失礼ね。いつもどおりで行くわよ」
『オーケー。オシャレしてこい。じゃあ、そろそろ昼休みが終わっちまうからよ』
「うん」
　音が消える。通信が終了した。
　ミレイユは受話器を戻しながら、機械にしがみつく。膝から力が抜けそう。
「約束……しちゃった……」

　ディナーの。
　ランディと食事をするのが初めてというわけではない。彼が警備隊にいた頃は、訓練のあと、よく一緒に食堂へ行ったものだし。野戦食だって一緒に取ったし。
　でも、今回のは、そういうのとは違うと思う。空腹を満たして体力を回復させるための食事ではない。
　繁華街である。予約して。レストランだなんて。
　しかも、オシャレを。
　これは世に言う《デート》というミッションではないだろうか!?　たぶん、きっと。
　ふ、ふふ、ふふふ……と口元が緩んでしまう。
　ハッ!?　とミレイユは我に返った。
「ちょっと!?　どうして、私が喜んじゃってるわけ？　ランディのことだから大した意味なんかないわよ。あいつは毎日のように他の子ともデートしてるんでしょうし！　わ、渡したい物があるって言うから受け取りに行くだけのことよ！」
「あ〜、ミレイユ三尉……？」
「ひゃっ!?」
　いつの間にか後ろで待っていた壮年の隊員に声をかけられ、飛び上がった。
「……そろそろ通信機を使わせてもらえませんかな？」

「し、失礼しました！」

あわてて部屋を出るのだった。

ふたたび、百貨店――

ロイドは通信を終えたランディに声をかける。

「やあ、そろそろ行こうか？」

「おっと。なんだよ、聞いてたのか？」

「それほど聞こえてはいなかったけど……ミレイユ三尉だろう？」

「ああ、元気にやってるみたいだ」

「そうか」

入り口のほうへ向かおうとすると、ちょうど緑色の髪をした細身の青年が歩いてきた。

ワジ・ヘミスフィアだ。

テスタメンツという不良グループのリーダーだが、先日、なにを思ったか支援課に志願してきた。今は臨時の準メンバーとなっている。

「ちょっといいかい？　ロイド、ランディ」

「結局、ワジも来たのか」

支援課ビルでくつろいでいるはずだったのに、とロイドが言うと。

「急な支援要請があったからね。ノエルも外で待ってるよ」

「なんだって!?」

ロイドは緊張を高めた。

ランディの表情も、いつものにやけ顔から、ひきしまったものに変わる。

「わざわざ呼びに来るなんざ、よっぽどの急ぎか？」

「全員が揃ったら現地に向かいながら話すよ」

ワジが入り口のほうへと向かう。

ロイドはランディと共にならんで追いかけた。

百貨店の外に出る。

店の前に、支援課の導力車が待っていた。

エリィたちは、もう乗りこんでいる。

運転席側の窓からモスグリーンの帽子をかぶった少女が、手を振った。

「ロイドさん、こっちです！」

「ああ！」

ノエル・シーカー曹長は警備隊に所属しているが、現在は、特務支援課に出向している。武器の扱いだけでなく、運転技術も優れているため、たいてい導力車のハンドルは彼女が握っていた。

とある事件を解決したご褒美……というわけでもないだろうが、支援課にも導力車が支給されたのだ。それだけ期待されているということだろう。

急いでいる状況では、とくに助かる。

今のように。

すでに状況を把握しているノエルがクルマを発進させる。

支援課メンバー六名と、キーアが乗っているのを確認して、ロイドはうなずいた。

「ワジ、状況を説明してくれ」

「ja（ヤー）・先ほど、支援課ビルに直接、クロスベル国際銀行（IBC）から支援要請があった。連絡してきたのは、あのマリアベル嬢だよ」

「ベルが……」

つぶやいたのは、エリィだった。

マリアベル・クロイスはIBC総裁の娘で、父親が新市長になったため、IBCの事業運営を一手に引き受けている。エリィとは幼馴染みで親友の間柄だ。困っているなら手助けしたいと思うのは当然だろう。

ワジが説明を続ける。

「IBCに来てくれという話でね。大事件というわけではないけど、急ぎの要件らしいよ」

「詳しくは現地で、というわけか」

「僕とノエルだけでもよさそうだったけど、IBCに行くなら、百貨店は途中だからね」

「合流できてよかったよ。なにかあっても導力車がないと、すぐには駆けつけられないしな」

ロイドの言葉に、ワジが微笑んだ。

運転席からノエルが声をかけてくる。

「はい！　到着しました」

IBC玄関前にクルマをつけて、ロイドたちは外へ出る。

「あたしはキーアちゃんと待ってますね」

「ありがとう、ノエル」



大きな玄関扉をくぐって、ロビーに入る。

あいかわらず広い。

エレベータホールのソファ前にふたり。金髪をくるくる巻いた髪型のマリアベルと、壮年の男性がいた。

ロイドたちは駆け寄って尋ねる。
「どうしましたか⁉」
安堵したような笑みをマリアベルが浮かべた。
「お待ちしていましたわ」
「おお、あなた方が特務支援課ですか⁉」
「ええ」
壮年の男性が、祈るように手を合わせる。
「私はクロスベルの郊外で工場を経営している者です。今日は工員たちのボーナスを引き落としに来たんですが……そのミラを入れたカバンを持って行かれてしまって……」
「なんですって⁉」
ロイドだけでなく、他の支援課メンバーたちも驚いていた。
「それは、大変お困りでしょうね……」
エリィが言えば、ティオがうなずいて。
「……事件です」
「置き引きってやつか？」
とランディ。
ワジが肩をすくめた。

「でも、ＩＢＣなら防犯カメラがあるんじゃない？」
「そのとおりです」
マリアベルが銀色のアタッシュケースを出した。
「持って行ったのは、うちと何度も取引のある顧客で共和国の方ですの。身元の確かな紳士ですし、防犯カメラの映像によると、どうやら似たようなアタッシュケースだったので間違えてしまったようですわね」
事件といえば事件だが、手違いによるトラブルだったらしい。
「つまり、そのマリアベルさんの持っているのが、間違えて持って行ってしまった紳士の、本来の持ち物ということですか？」
ロイドが確認すると、彼女がアタッシュケースを渡してきた。
「そういうことです。ロイドさん、悪いですが、この荷物、届けてくださらないかしら？ この時間なら、まだタングラム門は出ていません。あちらは今日の夜までに、その書類を持って国に戻らなければいけないハズですの。そして、こちらの社長さんも……」
「お願いします！ 今日の終業時間までにミラがないと、ボーナスが払えません！」
「わかりました。すぐにタングラム門に向かいます。全力を尽くすので待っていてください」
深々と頭をさげる社長に、ロイドは力強い言葉をかけ、仲間たちを外へとうながす。
状況が状況なのでマリアベルとエリィに個人的な会話はなかったが、互いに視線を交わして

いた。
　ＩＢＣを出ると、もう導力車が外へ向いて待っていた。
　ロイドたちはクルマに乗りこむ。
「どこに行きますか？」
　尋ねてきたノエルに答える。
「タングラム門へ！　急いでくれ！」
「おやすいご用です！」
　言うなり、導力エンジンがうなりをあげた。
　キュッと小さくタイヤを鳴らして、発進する。
「フフ……安全運転で頼むよ？」
　ワジの言葉に「もちろん」とノエルは返したが、いつもよりはスピードが速い。
「キーア、しっかり掴まってください」
「うん！」
　ひとつのシートをふたりで使うティオとキーアが、お互いに掴まり合う。シートベルトもあるし、大丈夫だとは思うが。
　ロイドは預かり物のアタッシュケースを、しっかりと両腕で抱えるのだった。

『ランディのプレゼント』

タングラム門――
　導力車が到着すると、今度はワジが残るという。
「ここはノエルのほうが詳しいだろ？　僕がキーアと待ってるよ」
「わかった」
　ロイドはアタッシュケースを持ってクルマを降りる。
　キーアが申し訳なさそうにして。
「ごめんね、ワジ」
「いいさ。こういう堅苦しい場所は苦手だしね。百貨店には、なにか面白いものが売ってたかい？」
「うん、ツァイトの首輪を買ってもらったの！」
「なるほど、それはきっと喜ぶだろうね。何色にしたんだい？」
　導力車のなかでお話ししているワジとキーアを残し、ロイドたちはタングラム門へと向かった。

ゲートの左側にあるカウンターにいる隊員に話しかける。

ここは、ノエルに任せることにした。

「おつかれさまです、オリバー隊員」

「おや、ノエル曹長じゃありませんか。おつかれさまです。今日は支援課の任務ですか？」

「はい。通行者リストを調べて欲しいのですが……」

ノエルから、探している相手の名前を伝えてもらう。

オリバー隊員がなにか思い当たったらしい。

「あ、その人なら、別室にいますよ」

「え？　なにかあったんですか？」

「申請なしに大きな額のミラを持ち出そうとしたので、取り調べ中です」

「あっ、なるほど」

犯罪防止や関税のため、高額なミラや物品を持ち出すには申告と身分証明が必要となっている。

中身は書類だと思っていたアタッシュケースに、たくさんミラが入っていたら、取り調べとなるのも当然だろう。

ロイドたちが別室に行ってみると――

予想通り、困惑した様子の紳士が、冷や汗を流していた。

「本当に知らないんです。どうして私のカバンに、こんなにミラが……しかも大切な書類はなくなっているし……」

「うーん、そう言われても困ったであります」

弱り顔の警備隊員にノエルが声をかける。

「ちょっといいですか、ジャック隊員」

「ん？　あっ、ノエル曹長！　おひさしぶりであります！」

「おひさしぶりです。こちらの紳士の身分証明と、そのミラの入ったアタッシュケースの引き取りに来ました」

「えっ⁉」

驚いた顔をするジャック隊員と紳士に、ロイドのほうから事の顛末を説明した。

「――というわけで、そのミラの入ったアタッシュケースが、とある工場の社長さんの物であることは間違いないと思います」

「そ、そうだったのか！　ああ、私は、なんという間違いをしてしまったのか……」

紳士が頭をかかえる。

ジャック隊員は胸をなでおろした。

「なんにしても、ミラの持ち主もわかったし、この人の身分もはっきりしたから、よかったであります」

「アタッシュケースが戻れば、とくに問題にはしないとのことですから」

　落ち込んでいる紳士をエリィが元気づける。

　ランディはミラの入ったアタッシュースを預かり、口笛を吹いた。

「たんなる書類が、こいつに化けたら、たしかに驚くだろうな」

「念のため、数えさせていただきます」

　ティオの言葉に紳士がうなずいた。

　ロイドは懐からエニグマを出し、状況をマリアベルに報告することにした。

　ＩＢＣの受付を経て、彼女へと繋いでもらう。

『おつかれさま、ロイドさん。追いつくことはできたかしら？』

「はい。今、ミラを確認しているところです」

『さすがは支援課ですわね。いつもながら手際がよくて助かります』

　問題なくすべてのミラがあることを確かめてから、ロイドは書類の入ったアタッシュースを紳士へ手渡した。

　彼は深々と礼をする。

「その社長さんには、後日、改めて謝罪に伺わせていただきます」

「伝えておきます。道中、お気をつけて」

　紳士はタングラム門のゲートをくぐり、共和国へと帰っていった。

　今度はミラの入ったアタッシュースを抱えて、ロイドたちはＩＢＣへと戻る。

　何度もお礼を言う社長を見送り、マリアベルからも感謝され、ようやく、ひとつの支援要請を達成した。

　ＩＢＣを出たところで、エニグマに通信が入る。

「はい、こちら、ロイド」

『あ、フランです』

「やあ、どうかしたのかい？」

　フラン・シーカーは警察本部のオペレーターを勤める女性警察官だ。ノエルの妹でもある。

『鉱山町マインツから、緊急の支援要請が入りまして。行けそうですか？』

「マインツから？　もちろん、行かせてもらうよ」

『バス停の、すぐ近くに大型の魔獣が出たらしいです』

「わかった」

　エニグマをしまい、みんなに話を伝える。

　すぐに向かおう、ということになった。

「キーア、もうすこし出かけることになるけど……大丈夫か？」
「うん、へいき！」
「今度は私が一緒にいます」
　ティオが請け負って、魔獣退治は他の五人でやることにした。
　導力車で鉱山町マインツへと向かう。



　クロスベルの街を西日が赤く染めている。
　結局、ロイドたちが支援課ビルに戻ってこられた頃には、もう夕方になっていた。
「ふぅ……今日はいつにも増して忙しかったな……」
「本当ね」
　ロイドの疲れた声にエリィが苦笑した。
　ようやく、百貨店で買った物を開けられる。
　一足先に自室へ戻っていったランディが、紙袋を持って降りてきた。
「ちょいと出かけてくるわ」
「あ、そういえば、約束があったんだったな。時間、大丈夫か？」
「先輩、送りましょうか!?」

『ランディのプレゼント』

　ロイドとノエルに、ランディが手を横に振った。
「いや、そんなギリギリでもねえよ。ちょっと早いくらいだ」
「それならよかった」
「じゃあ、あたしは導力車を洗ってきますね。今日は、いろんなところを走ったから泥だらけになっちゃってるし」
「おう、そうしてやんな」
「フフ……余裕があるなら、シャワーくらい浴びて行ったらどうだい？　それとも、向こうで浴びるのかな？」
　くすくすと笑うワジに、ランディが肩をすくめる。
「そんなんじゃねえよ。もちろん、シャワーくらい浴びてくっての」
　ランディは紙袋を応接スペースにあるソファのうえに置くと、風呂場へと向かった。
　キーアがやってくる。
「ツァイト、今日ね、百貨店で首輪を買ってもらったんだよ！」
　紙袋を見せた。
「ウォン！」
　ツァイトが鳴く。
「えへへっ、かわいいんだよ～」

「グルル……ウォン！」
はたはたとツァイトが尻尾を振った。
そのとき、エリィが台所から声をかけてくる。
「ロイド、夕飯の準備をするのだけれど、ちょっと手伝ってもらっていいかしら？」
「ああ、もちろん」
「あ！　キーアも手伝う！」
「ほんと？　ありがとうキーアちゃん」
「うん！　えっと、ツァイト、ちょっと待っててね！」
「ウォン」
かまわないから行くといい――といった様子でツァイトは伸びをすると、ふたたび丸くなって目を閉じた。
キーアは応接スペースの机のうえに紙袋を置いて、台所へ。
ほほえましく思いながらロイドも手伝いをしに顔を出す。
こうして、ロイドとエリィとキーアは料理。
ノエルは洗車。
ワジとティオは自室に戻り、応接スペースには丸くなっているツァイトだけになった。

『ランディのプレゼント』

シャワーを浴びたランディがやってくる。
「やべえな……思ったより時間かけちまった。待たせると、うるさいからなぁ」
応接スペースの机のうえにあった紙袋を手に取り、彼は繁華街へと足を向けるのだった。

続きは単行本で！

『英雄伝説 空の軌跡FC』から10年——
あの名作が小説になってついに登場！

英雄伝説 空の軌跡 1 消えた飛行客船 を試し読み!!

こちらも6月発売の新刊試し読みの第2弾！　vol.40では、冒頭からエステル、ヨシュアが準遊撃士となり、二度目の翡翠の塔へと向かうところで終了。今回はその続きからスタートだ！　リベール通信の記者・ナイアルとカメラマンのドロシーの依頼を受け、ふたりは塔へと向かうのだが……？





■書籍情報
タイトル：『英雄伝説 空の軌跡 1 消えた飛行客船』
原作：日本ファルコム（『英雄伝説 空の軌跡』）　著：はせがわみやび　イラスト：ワダアルコ
発売日：好評発売中　価格：1,200円+税　判型：B6正寸　ページ数：296ページ
発行元：フィールドワイ　発売元：メディアパル

『英雄伝説 空の軌跡 1 消えた飛行客船』

著：はせがわみやび／イラスト：ワダアルコ

※本コーナーは、6月24日に発売された『英雄伝説 空の軌跡 1 消えた飛行客船』の冒頭部分を、本コーナー用に再レイアウトして掲載しているものです。実際の商品とは一部レイアウトが違いますことを、予めご了承ください。

一時間ほどで、エステルたち四人は無事に《翡翠の塔》までやってきた。
つい先だっても訪れたばかりの場所だ。あのときは緊急事態で成り行きだった。それが今度は正式な任務で訪れている。なんとなく不思議な感じがしてしまう。
蒼空を背景に翠色に輝く円筒形の塔をエステルは見上げる。
古代の文明の遺跡——《翡翠の塔》。
遥かな過去から、ずっとここに佇んでいる……。
この謎の塔を目の前にして、エステルは、リベール通信のカメラマンに驚かされることになった。
「おおっ、いい顔してますねー」
カメラを建物に向かって構えた第一声がそれだった。
「セクシーですねぇ。とってもキュートですぅ！」

塔の前をうろうろしながら、ファインダーを覗いては盛んに塔に向かって声を掛けている。

時折シャッターを切る音が鳴り響いた。

「行きますよー、ハイ、チーズ。そうそう。もっと笑ってー。あー、いいですねえ。とってもチャーミングですよぉ！」

塔に向かって、だった。

決して、塔を背景にして誰かが被写体となっているわけではない。

「笑って、とか……。じ、人物を撮ってるわけじゃないのに……」

「でも、違和感はないよね……」

オーバルカメラを操っているカメラマンの名は、ドロシー・ハイアット。

エステルより四つほど年上の女性だった。ほんにゃりとした柔らかい顔立ちに独特の丸い眼鏡をかけている。

黙っていれば落ち着いたおとなの女性に見えないこともない。

あくまで、黙っていれば、だったが。

そういえば、とエステルは思い返す。

塔に辿りつくまでの道中でも、ドロシーは珍しいものを見つけるたびに声をあげ、道をそれて首を突っ込もうとするので、そのたびにナイアルに首根っこを掴まれて引き戻され怒られていた。

カメラをポーチから取り出し何か叫びながら走ろうとしていたっけ。

道中も、こういうことをしたかったわけか、と理解する。

「あいつには、景色の〝表情〟が見えるんだとさ」

ナイアルが言った。

「表情が？　あ、うん、なるほど……ええと？」

「遠慮しなくていいぞ。俺もそれがどういうことかわかってるわけじゃないからな。解説なんてできねぇよ。けどな、あんなアホなやり方で、息を飲むような写真を撮りやがる。ま、一種の天才だわな」

「天才……。はあ、人は見かけによらないわね」

ドロシーはひとしきりシャッターを切ると、満足したのか小走りになってエステルたちの元に戻ってきた。

肩から提げたポーチのなかへとカメラを戻しつつ、ちらりと塔を見あげてつぶやく。

「これって、何階建てなのでしょう？」

「うーん。五、六階だと思うけど」

エステルにはそう見える。

「五階建てのはずだよ。ウチにある資料に書いてあった。この塔とそっくりな塔は大陸のあちこちにあるみたいだね」

「その通りだ。ボースやルーアン、ツァイス地方にも、これと同じ様式の古代の塔が建っているらしい。リベール王国が建国された時代のものらしいとさ」

ナイアルが付け足した。

「建国の……。それってずいぶん前よね？」

「千年以上前になるね」

ヨシュアが薀蓄を披露した。彼は本を読むのが好きで、歴史的なできごともよく覚えていて、時折こうして教えてくれる。

「千年かぁ。歴史のロマンを感じちゃうわね」

「そういうことを伝えるのが俺たちの今回の仕事でな」

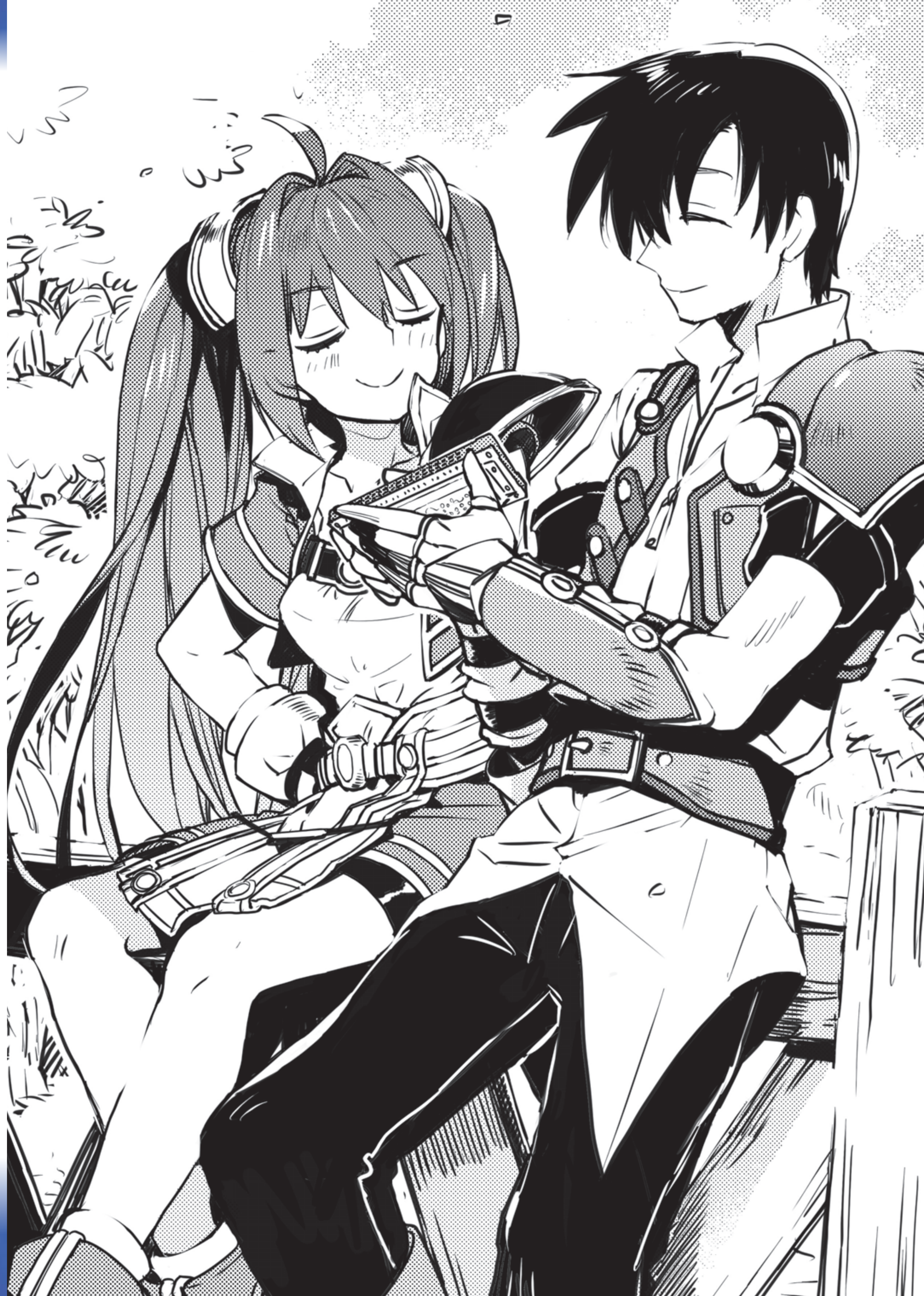
「ロマンを？」

「まあ、それもひっくるめて全部だな。ロマンとか歴史とか……謎とか。さて、なかに入るとするか。頼んだぜ、新米遊撃士ども」

「任せなさいって！」

胸を張って言ったものの、塔に入る直前になってエステルは少しだけ不安になってしまう。冷たい氷を胃のなかに流し込んだような気分だ。

前回は二階までしか昇っていないし、最後の最後で父親に助けられてしまった。今回は父はいない。そして、てっぺんまで昇らなければいけない。



「基本的に戦いは避ける方向で行きます。いちいち魔獣たちと戦っていては時間がかかりますから。彼らに見つからないように、隠れつつ進むつもりです」

ヨシュアが言った。

「そうしてくれ。日が落ちる前に辿りつかねえと写真が撮れなくなっちまう。こんな遺跡のなかで夜を明かすなんて、ぞっとしねえからな」

ナイアルもとくに反対はないようだった。

そして、そこでみな口をつぐむ。

ここから先は、魔獣がうろつく遺跡のなかだ。不用意に声を出すことは避けなければならなかった。

みな押し黙ったまま、遺跡の入口をくぐる。

魔獣、と呼ばれる獣は、犬や猫のような街中でもよく見かける動物たちと違って、もっと凶暴で、変わった力をもっている生き物たちを指す。大陸には多種多様の魔獣たちがいるが、どの一匹を取っても、けっして侮ってよい生き物ではない。

戦えば、それなりに自分たちも傷つくことを覚悟しなければならない。

護衛は好戦的であってはならない。それは遊撃士の資格を取るために学んでいれば、最初のほうで教わることだった。

ルックとパットを追ったときにも使った階段を昇って二階へと上がった。そこまでは、がら

【序章】父、旅立つ

んとしているだけの古い建物だ。空気も淀んでいて黴の匂いがする。

上のほうから獣の叫び声らしきものが聞こえてくるもののまだ危険はなかった。

それでもあたりに絶えず注意を払いながら進む。

明りは、壁から燭台のように突き出している照明装置の放つ魔法の光に頼った。

背負い袋のなかに、手に持てる簡易の導力灯もあるものの、それでわざわざ手を塞いでしまうのは避けたかった。使うのは、魔法の光が消えたらでいい。

古代の遺跡のどこででも同じらしいが、古い遺跡は導力魔法を利用した灯りが点いたままになっているのだ。

先ほどのヨシュアの蘊蓄によれば、遺跡は千年以上前のものだそうだから、これらの明かりはざっと千年間も点きっぱなしということになる。

一千年――気の遠くなるような時間だ。

およそ五十年前に始まった導力革命は、人々の暮らしを劇的に進歩させたが、それでもこうして古代の遺跡のいまだ解明されない機械の数々を見ると、果たして自分たちがどれほど先に進んだのかわからなくなる……。

塔の二階に昇ったところから雰囲気が変わった。

前にも戦った飛び猫やコーラルシェルの蠢く姿が影のなかに見えた。

壁沿いにゆっくりとエステルたちは先へと進む。

常に壁を背負うことは重要なことだった。壁のあるほうからは不意打ちを避けられるからだ。

上下する階段は、どうやら塔の外周部にだけあるらしく、しかも、ひとつの階段では一階層しか昇ることができなかった。

つまり、ひとつ上に昇ると、同じ階のわざわざ別の場所に設置されている階段を見つけて、そこまで回ってから昇らないといけない。

「なんで、こんな造りになってるんだろう？」

最上階らしきところまで辿りついてひと休みになったとき、エステルは疑問をぶつけてみた。

もちろん休みといっても、壁の隅で車座になって、ちょっと腰を下ろすだけだが。

「塔じゃないのかもしれないな」

ヨシュアがぽつりと言った。

† † †

「塔じゃない、だと？」

ナイアルがいぶかしげに言った。

「確信があるわけではないですが……」

「塔じゃなかったら、何なの？」

【序章】父、旅立つ

「僕もそこまではわからないよ。ただエステル、塔って何のために建てられると思う？」

そう問われて、エステルは躊躇せずに答える。

「住むためでしょ」

「さすがエステルだね」

「む。誉められてる気がしないんだけど」

「シンプルでいいなって思っただけさ。それに間違ってはいないと思うよ。ただここで聞いているのは、どうして塔でなければいけないのかっていうこと」

「どうして、ってどういう……？」

「上に伸ばすのはどうしてかってことだろう？　平屋や二階建てじゃなくて、どうして高い建物を造らなければならないのかってことだ。まあ、第一には建てたい場所に空き地がない場合だな」

ナイアルに言われて、ようやくエステルにもピンときた。

「そっか。狭い場所しかなかったら、上に増やしていくしかないものね」

「そういうこと。でも、それだけじゃない。塔であることには、三つくらい利点があるんだ。エステル、わかる？」

「ええ!?　うーん」

エステルは少し考えてみたが「狭い場所を利用できる」以外を思いつかない。そもそも、彼

女はあまり謎解きの類が得意ではないのだ。

　話を聞いているのかいないのかわからなかったドロシーが、不意に膝を乗り出してきて、立てた指を左右に振りながら口を開いた。

「高い塔はですねえ。とってもおおらかさんな顔を見せてくれるんですよ！」

「は？」

　訳がわからない。

「眺めがいいってことだろ」

「それです！　それを言いたかったんですよぅ。さすがはナイアル先輩です！　まさに以心伝心。わたしたち相性ばっちりですねー」

「それだけは断固拒否する」

　きっぱりとナイアルが宣言した。

「あうう。その言い方はあんまりですよぅ」

　しょんぼりとしてしまうドロシーが、年上ながらちょっと可愛いとエステルは思ってしまった。

「まあでも、それが二つめの利点だね。昇れば、遠くまで見ることができる。お城の見張り塔（ウオッチ・タワー）とかを思い出してごらん」

「ああ……そうか。そうだね」

【序章】父、旅立つ

　納得だ。

「つまり、塔は住むためだけに造られるとは限らない。遠くまで見張るために建てられることもあるわけだ。この塔も、人が住んでいたような感じがしないだろ」

　ヨシュアが言って、階段の周りに視線を巡らせた。

　確かに、ここには人が暮らしていた形跡がいっさいない。机も椅子もベッドもないし、水場らしきところも見当たらない。水場っていうのは、ようするに調理場とかお風呂とかトイレとかだ。

　なによりも、こんなふうに床がところどころ抜けてしまっていて、身を乗り出せば落ちてしまいそうなところに住む物好きはいないだろう。

「それって、ここが見張り塔だってこと？」

　エステルが言って、ヨシュアが首を左右に振った。

「違うと思う。だって、ここから何を見張るのさ」

「建国期にこのあたりに町とか鉱山があったってぇ話も聞かないしな」

　ヨシュアの言葉を、ナイアルが裏付けた。

「なるほどねー。ええと……。で、塔の利点の三つめって何なの？」

　ヨシュアがちょっとだけ言い淀んだ。それから、口を開く。

「逃げられないように閉じ込めやすいってことかな」

「え？」
「身分の高い捕虜や罪人を閉じ込めるために使うのさ。孤立しているから監視しやすいし、高いところに閉じ込めれば脱出しにくいだろう？　まさか窓から飛び降りて逃げるわけにもいかないからね」
　ヨシュアの言葉を聞いて、塔のなかに閉じ込められた姫君のおとぎ話を思い出した。
「そんな顔しないで、エステル。この塔はそういうのとも違うと思うよ。まぁ……とにかくそんな必要がないなら、わざわざ塔を造る理由は薄いのさ」
「ふふん。やるじゃねえか。新米でも遊撃士だな。ようするに塔として利用しているように見えないから、塔じゃないかもしれないってわけだな」
「そうです」
「住むためでもない。遠くまで見張るためでもない。閉じ込めるためでもない。で、おまえさんは、この《翡翠の塔》の正体は何だと思うんだ？」
「それは……」
　ヨシュアの返す答えをエステルは結局、聞けずじまいに終わった。ナイアルに促されて、ヨシュアが口を開こうとしたときだった。背筋にぞくりと冷たいものが走り、同時に——。
「伏せて！」
　ヨシュアが叫んで、隣にいたドロシーをかばった。

　ほぼ同時にエステルもナイアルも身を伏せる。
　エステルたちの頭の上を何かがよぎった！　髪が風圧でなびく。少し遅れて生臭い匂いが鼻先をかすめた。
　頭上を越えて階段のほうへと飛んでいった何ものかを見つめる。
「《ラバートラッパー》！」
　ヨシュアがうめくように言った。
　階段の手前でそいつは振り返った。
　床から一アージュほどのところに羽もないのに浮いている。
「なっ……魚!?」
　流線形なそいつの青い身体は魚そっくりだったのだ。水もないのに、空中で身体をゆらゆらと揺らしている。
　昇り階段の前で、エステルたちを通せんぼするかのように立ち塞がった。
　倒さなければ、どうやら屋上へは行けないようだ。

†　†　†

　コーラルシェルが海から上がってきた魔獣であるように、ラバートラッパーもまた海から来

たりし魔獣だった。
　すぼまった口元から尾びれの先まで二アージュほどもある空を飛ぶ巨大な魚だ。
　相手の先制攻撃（ファーストアタック）を何とか避けたものの、不意を突かれてエステルたちは後手に回ってしまっている。
「早く決着をつけたほうがいいね……」
　ヨシュアが言った。
　戦いの物音は予期せぬ他の魔獣を引き寄せかねないからだ。
「任せて！　ナイアルさん、ドロシーさん、できるだけ壁のほうに下がってて！」
　二人に魔獣から遠ざかるように言ってから、エステルはパイルロッドを構えた。
　パイルロッドは、両端に補強用の金輪がはめられた棒術用の武具だ。前に持っていた白木の杖に比べると、敵に当てたときの衝撃が大きくなる。
　そのぶんだけ重くなるわけだが、今のエステルにはちょうどよかった。
（少なくとも……）
　ぐっと棒を握る手に力を込める。
（前にここで戦ったときよりも、増した重さのぶんだけ成長してるんだ！）
　だからこの重みが今はありがたい。
　父の助けが絶対に来ないことをわかっていても戦える！

「いやあああぁ！」
　エステルはひと声叫ぶと、床を蹴ってラバートラッパーの元まで駆け寄った。
　一気に間合いを詰め、パイルロッドを振りかぶる。
　気合を込めて叩きつけた！
「なッ！」
　ぬるり、と。
　ラバートラッパーがまるでここが水中であるかのように身をくねらせた。エステルの杖が空を切る。
　エステルは勢い余ってたたらを踏んだ。一歩、二歩と身体のバランスを崩したまま泳ぐように歩いてしまう。
　次の瞬間に、背中に衝撃を感じて吹っ飛ばされた。
「エステル！」
　一瞬だが、両足ともが床から離れていた。宙に身体が浮いてから、激しく石の床に叩きつけられる。
「あう！　くっ！　手が……！」
　左手を身体の下に巻き込んだまま倒れた。変な方向にひねったらしく、痛みに思わず顔が歪んでしまう。

「来てるぞ、嬢ちゃん！」
ナイアルの切羽つまった声にエステルは辛うじて目を開いて顔をあげる。
肌が粟立った。
エステルに向かって飛びかかってくる巨大魚の姿が見えた。
「やられて――」
必死になって身体を転がした。
「――たまるかっての！」
ガツン、と先ほどまでエステルの倒れていた床にラバートラッパーが激突していた。
ガチッと歯を噛みあわせる音が響いた。
「ひゃあ！　魚というより、サメさんですよぅ！」
「サメも魚だぞ、ドロシー」
「おお？」
「どっちだっていいわよ。こんなヤツ……！」
まだ痺れている左手をかばいつつ、エステルはなんとか身体を起こした。
杖を構えなおす。
「エステル」
静かなヨシュアの声にちらりと視線を投げる。

ヨシュアの顔から表情が消えていた。冷めた瞳でラバートラッパーを見ている。
彼は怒っていた。
エステルにはわかる。
「隙を……」
ヨシュアが小さな声で言った。
攻撃するから、隙をつくってくれ、という意味だ。
「うん」
短く了解の返事をする。
じりっと、エステルは足をすべらせて、有利な位置を確保しようと動く。棒術の長所は間合いを変えられるところだが、狭い場所だとあまり大振りできないからせっかくの利点が消えてしまう。
ラバートラッパーは今、背中を壁につけたところに浮いていて、このまままっすぐに突っ込んでも、大きく振りまわしてロッドを当てることはできない。
パイルロッドの先端が壁に当たってしまうからだ。
巨大魚の動きは、まるでエステルの次の攻撃を読んでいるかのようだ。
(でも、それならそれで、やりようがあるのよね)
床を、蹴った！

ふたたび間合いを詰める。

近寄りながら、エステルは振りかぶる代わりに、杖を思い切り引いた。

そして――痛む左手を添えながら、背中のほういっぱいまで引いた杖を、まっすぐにラバートラッパーへと向かって突き出す。

棒術は叩くだけではない。

突く、こともできるのだ。

ラバートラッパーはようやくエステルが何をしようとしているかを察したようだ。

だが――。

「遅い！　もらったぁあ！」

渾身の力をこめて、エステルはパイルロッドを突きだす。

身をよじった巨大魚の鼻先をかすめ、エステルの得物は頬のエラの辺りを直撃する。

ギィィィィ！

魚らしからぬ苦痛に満ちた声を上げて、ラバートラッパーが暴れた。

尾を無茶苦茶に振り、身体をばたつかせる。

エステルから慌てて遠ざかった。

怪魚は離れて体勢を整えようとしたのだ。

続きは単行本で！


英雄伝説 碧の軌跡
FB ファルコムBOOKS
いつか貴方とお茶会を
著者：むらさきゆきや
イラスト：窪茶
『碧』でもゆる〜く活躍中!?
『月刊 Falcom magazine』で好評を博した『英雄伝説 零／碧の軌跡』の主人公・特務支援課がゆる〜く活躍するノベライズ作品の第二弾がついに発売！ 今回もゲーム本編とはひと味違った魅力満載の小説となっているぞ！
好評発売中!!
6月24日発売予定
定価：1,100円+税
ISBN：978-4-89610-821-7
©Nihon Falcom Corp. All right reserved.
発行：フィールドワイ
発売：メディアパル
フィールドワイのHPはこちら
www.field-y.co.jp


英雄伝説 空の軌跡SC
ソラノキセキSC
ファミ通コミッククリアにて
大好評連載中
「軌跡シリーズ」の生誕10周年を記念して、あの物語がついに動き出した！
大団円を迎えたWebコミック「英雄伝説 空の軌跡 FC」の作者、啄木鳥しんき先生により、
「英雄伝説 空の軌跡 SC」が待望のコミカライズ！
感動の物語を漫画でもう一度体験しよう！
ファミ通コミッククリア
http://www.famitsu/com/comic_clear/
軌跡シリーズの原点を高画質で！
PS3
英雄伝説
空の軌跡：改
HD EDITION
(FC / SC / the 3rd)
好評発売中
"PS" および "PS3" は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

FALCOM MAGAZINE SPECIAL プレゼント!!

アンケートにお答えいただいた方から抽選で
ここでしか手に入らないアイテムをプレゼント！

今月のプレゼントはこちら!!



① 各3名様

❶『ファルコム軌跡マガジン』
既刊セット

全国ゲームショップなどで配布中の紙媒体マガジンを既刊セットで！夏にピッタリ、女性キャラの麗しい水着姿のイラストの表紙は必見だ！



② 1名様

❷シャイニングポム リール付きパスケース

編集部の掘り出し物アイテムを大放出！　夏休みのお出かけにキュートなポムを連れて行ってあげてね♪

プレゼントの応募方法　こちらのアンケートの回答を下記のアドレスまでメールにてお送りください。プレゼントの当選者には編集部よりメールにてお知らせ致します。

宛先：
件名：vol.42　プレゼント係

1：お名前（ペンネーム可）
2：面白い→
　つまらない→
　（記事一覧から1つずつ）
3：①
　②
　（はい・いいえ／作品名）
4：希望するプレゼント番号
5：ご意見・ご感想など

【記事一覧】

1：英雄伝説 閃の軌跡II最新情報
2：シリーズ10年の軌跡
3：みんな集まれ！ファルコム学園
4：jdkバンドボーカル・コテカナのコテ放題
5：ティオのファルコムラジオ
　めんどくさいです…でもがんばりますの舞台裏
6：jdkバンドドラマー・オカジの人生半キャラずらし
7：軌跡ノキセキ
8：ファルコムニュース
9：最新ファルコムBOOKS試し読み第2弾

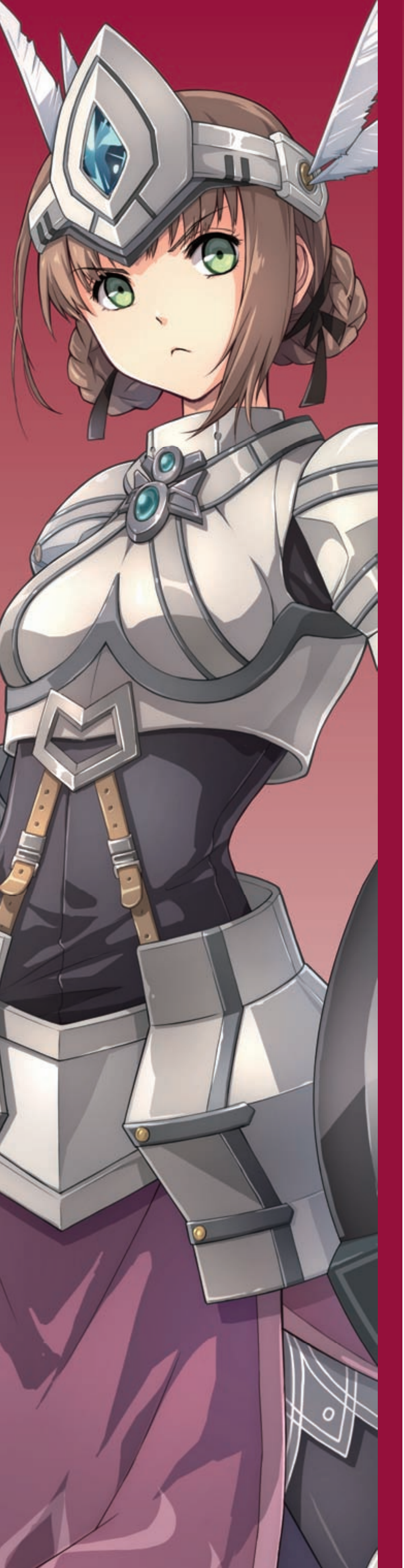
アンケート

①マガジンで
　インタビューが
　読みたいクリエイターは
　誰ですか？
②日本ファルコムの
　ゲーム作品で
　1番好きな作品は
　何ですか？

特設サイトからも応募ができます!
http://www.field-y.co.jp/root/index.php/falmagap

宛先はこちら➡ falmaga@field-y.co.jp　応募締め切り　**8月25日**

メールにてお送りいただくお名前やご住所等の情報は、賞品の発送のためのみに利用し、その他の目的には利用致しません。
また、情報は応募締め切り後3ヶ月を越えて保有することはありません。



月刊 FALCOM MAGAZINE Vol.42

発行人	田中一寿
発行協力	日本ファルコム株式会社
編集	小渕智幸 大場恵美子
デザイン・DTP	さとうだいち
表紙ロゴデザイン	荻窪裕司（ビーニーズ）
発行	株式会社フィールドワイ 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-1-9　日光ビル3F TEL 03-5282-2211（代表） http://www.field-y.co.jp/
制作・販売協力	シナノ印刷株式会社

トールズ士官学院特科クラスⅦ組が漫画で大活躍！

英雄伝説 閃の軌跡



『閃の軌跡』コミカライズ情報　第2弾！

リィンたち特科クラスⅦ組の軌跡を描く担当作家が決定！

前号でお伝えした『閃の軌跡』のコミカライズ企画。今回はついにその漫画を担当する作家が決定したので、その情報をお届けするぞ。漫画の作画を担当するのは流麗なタッチで世界観を作り出すさがら梨々先生。脚本は『閃の軌跡』『閃の軌跡Ⅱ』の同梱ドラマCDの脚本を担当した恵村まお先生だ！　現在、vol.44での連載開始に向け順調に準備中なので、もうしばらくお待ちいただきたい！



漫画『英雄伝説 閃の軌跡』は
漫画：さがら梨々　脚本：恵村まお
vol.44より連載開始予定!!



次号は連載直前ということで、イメージイラストを準備中！お楽しみに!!